

風水景観および風水思想と地形の関連に関する研究

—韓国農村集落における風水景観に関する研究その9—

正会員 ○樋口 夏希 *1 同 佐藤 誠治 **2
同 姫野 由香 ***3 同 山口 泰佑 *1

農村計画 景観・環境資産 農村景観・集落景観・自然景観
風水 風水景観 山

1. 研究の背景と目的

風水理論は、地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法である。その風水理論によって創出された景観は私たちの感性に訴えかけ、安心感や躍動感など、様々な感情を湧きあがらせる。景観を研究するにあたって地形と人の営みによる景観の特性を明らかにすることは、周囲の環境を作り変えようとしがちな現代の景観を考え直す一環となるものであり、意義あることである。

風水理論における地形の構成は、山・水・方位の三者によって成立するとされている。理想的な風水の地形とは、背後に高くそびえる山(=主山)があり、前方に水流(=水口)があり、周囲には四神砂と呼ばれる「玄武(北)」、「青龍(東)」、「白虎(西)」、「朱雀(南)」を表す地形(山・川・道・平地)があることとされている¹⁾。

本研究では、風水の吉地選定のプロセスによって造られた集落の地形構造的な特徴と、風水集落が創出する景観の特徴を明らかにすることを目的とする。

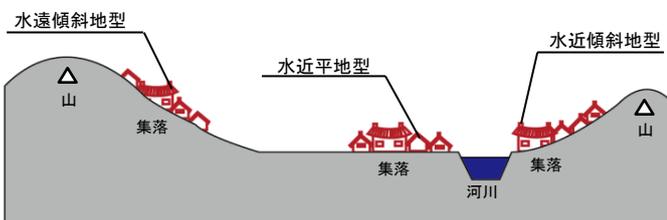


図1 地形構造的な特徴(断面)の分類

表1 地形分類とヒアリング表

地形分類	集落No.	集落名	風水認知 有 無	風水を感じる理由	村の形 (形局)	村名の持つ意味 (地名裡補)
水近平地型	3	大井	3 2	平地で住みやすい	-	-
	4	立石	1 2	ソウルのような雨での被害がない	-	-
水近傾斜地型	5	中基	0 2	昔、地理学者がこの土地は風水的に良いと言っていた	-	-
	7	三化	4 2	風水的な伝統がある(昔から良いと言われている) 水や山、空気がきれい・外から移住して来る人が多い	-	昔:三つの花 今:三つの果
	8	白日	0 5	ジルサンサ・チリ山がある(面全体での風水を感じる)	-	-
	9	下黄	1 3	人の心が優しい 長生きの人が多い	船の形	-
水遠傾斜地型	10	中黄	0 2	-	船の形	-
	1	獐項	2 3	-	ノロジカの形	-
	2	梅洞	4 0	山が幾度も連なっている 山も川も昔から良いと言われている	-	昔:猫 今:梅の花
	6	元泉	1 0	昔から風水的に良いと言われている・ 里の人の心が優しい・チリ山に囲まれている	籠の形	-
-	11	上黄	2 0	山が並んでいる・ 水や空気がきれい・人の心が優しい	牛の頭の形	-
	-	盆地全体	18 21	-	蓮の花の形	-

2. 集落調査対象地域と研究方法

本研究では韓国全羅南道南原市山内面を対象に分析・考察を行う。山内面は韓国南部に位置し、8つの里と16の集落で構成されている。今回の対象地域はそのうち5つの里と11の集落を含む。本研究の方法として、風水景観を有する集落を選定し、景観調査を行った。調査日は2011年7月31日から8月4日である。調査では景観写真の撮影と、集落住民へのヒアリングを行った。これらによって得られた結果と、Google Earth²⁾やDaum³⁾といったインターネット上の地図サイトによって得られた情報をもとに研究を進める。

3. 各集落の地形構造的な特徴の分類

調査対象である11の集落を地形構造的な特徴によって分類を行った。今回の集落では、河川に近く平地に集落が存在する「水近平地型」、河川に近く傾斜地に集落が存在する「水近傾斜地型」、河川から遠く傾斜地に集落が存在する「水遠傾斜地型」の大きく3つに分類することができた(図1)。

4. 各集落における風水思想

4.1 地形構造と風水思想

今回の現地調査では、ヒアリングにて風水思想に関する4項目(表1)の回答を得ることが出来た。これらの結果を、3章で示した3つの地形分類と照らし合わせたものが表1である。この結果から、水近平地型では風水認知が有る人数と無い人数の差がほとんどなく、風水を感じる理由として平地でありながら災害が少ないことや、生活がしやすいことを理由に挙げる集落が2集落と多くみられた。水近傾斜地型では、風水認知が無いと答えた人数が14人と多く、風水を感じる理由として面全体や土地の良さを挙げられた集落が5集落中3集落と多くみられた。水遠傾斜地型では風水認知が有ると答えた人数が9人と多く、山の形や連なりを、風水を感じる理由として述べた集落が4集落中3集落と多かった。このように、各集落に住む人々の風水思想は、その集落の立地条件による影響があると考えられる。この結果は、環境を重んじ吉地を選ぶという地形を重視した風水の根本的考えに、影響されているのではないかと考えることができる。

4. 2 風水思想からみた集落の形局と地名裨補

風水では、気が集まるところ、すなわち穴および明堂を中心に周辺の地形を動物、植物、物等になぞらえることを「形局」という⁴⁾。また、「地名裨補」は高麗初期からあったと言われる風水の考えの一つであり、物理的な空間操作によらない意味的なイメージ構造の操作によって居住環境の質を改善する方法である⁵⁾。

今回のヒアリング調査では、この形局論、地名裨補にあたる内容の回答が確認できた(表1)。この対象地域では動物型と植物型、物型になぞらえている集落が8集落存在し、この回答を3で分類を行った地形分類の内容と照らしあわせてみると、今回の対象地域では水近平地型では回答なし。水近傾斜地型では、形局は全て物型であり、水遠傾斜地型では、形局は全て動物型という結果が得られた。水近傾斜地型は河川に近いことや、傾斜地ということから災害に合いやすい場所である為、物型の形局が吉とされ、水遠傾斜地型は河川から遠く山に近いことから動物型の形局であることが最適であったと考えられる。このように、今回の調査対象地域では、風水思想と地形は密接に関連している結果となった。

一方、地名裨補については、今回は傾向がみられなかったが、元々裨補は吉地に足りない条件を補うための作法で有る為、地形条件との関連性は高いと考えられる。今回の対象地域での地名裨補は2カ所と数が少なかった為、調査対象の集落の数を増やすことによって傾向を見ることが出来る可能性があると考えられる。よって、今後の研究においても注目していきたい。

5. 各集落における風水景観

5. 1 要素の選定方法と写真の選定

今回は、分析をするにあたって、集落の入り口側から見た際に集落の背後に、山あるいは丘が写っている写真を各集落1枚ずつ、合計11枚を選定した(図2)。この選定写真に写りこんでいる集落の背後に位置する山あるいは丘を、主山の役割を担っている山(以後主山と呼ぶ)とみなし、分析を行った。また、撮影した写真は全て35mmレンズを使用した。

5. 2 視点—山の距離と仰角からみる景観評価

本節では、選定写真の視点から写真に写りこんでいる各山の頂点までの距離の測定を行う。この距離の測定ではGoogle Earthを利用し、水平距離を計測した。さらに、写真の視点の標高、山・丘の頂点の標高を測った後、2点の標高差を計測した。得られた標高差を各距離で割ることでArc Tan θ を計測し、仰角を求めた。また、各山・丘までの距離を測定したものを元に、視点に対して各山が含まれている写真数を距離別にあらわしたものが表2である。表2から丘・主山・遠方の山のカテゴリー別に見

ていくと、丘・山という要素のみで近・中・遠景の景観が構成されている事が分かる。手前・中間・奥という奥行きのある風景が常にあることから重畳感を感じることができ、ヒアリング内容からも分かるように(表1)、人々の心境に影響を与えていると考えられる。また、仰角に関しては表2より、主山を見上げる際の角度は11~14°の間に72%が存在することが分かる。さらに、丘についても66%が7~9°の角度にあることが見てとれる。

今回の分析の結果は山を見込む仰角に良いとされている10°前後⁶⁾に近い数値であることが明らかとなった。



図2 選定写真の例

表2 各山の Arc Tan θ と仰角・距離別表

集落	Arc tan θ		仰角(°)	
	丘	主山	丘	主山
1		0.16		9
2	0.13	0.25	7	14
3	0.01	0.20	1	11
4		0.2		11
5		0.37		20
6		0.28		16
7		0.22		12
8	0.16	0.25	9	14
9		0.23		13
10		0.22		12
11		0.25		14

視点からの距離(m)	近・中・遠景	写真の枚数		
		丘	主山	遠方の山
0~500	近景	1		
501~1000		2		
1001~1500	中景		1	
1501~2000			5	
2001~2500			2	1
2501~3000	遠景			3
3001~3500				3
3501~				

6. 総括

本研究で得られた知見は次のとおりである。

- 1) 地形構造的特徴がその集落に住む人々に風水思想を与えていることが確認できた。また、形局についても地形構造的特徴が影響を与えており、同類の形局がほどこされていた。
- 2) 丘・山という要素のみで近・中・遠景の景観が織りなされており、重畳感を感じることが出来た。
- 3) 各集落の主山や丘は、78%が見えの大きさが良いとされている10°に近い値で見ることができた。

【参考文献】

- 1) 山口泰佑・佐藤誠治・姫野由香・野口浩平：「韓国農村集落における風水景観に関する研究 その1—農村集落景観調査による風水と景観の関係の把握—」, 日本建築学会九州支部研究報告 第50号, 2010.3, pp1
- 2) 「Google Earth」, <http://www.google.co.jp/intl/ja/earth/index.html>
- 3) 「Daum」, 韓国地図サイト, <http://local.daum.net/map/index.jsp>
- 4) 朴 贊弼, 山田 水城, 古川 修文：「風水思想からみた集落の形局に関する研究 東支那海東域の集落を中心に」日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), 1997-9
- 5) 金 暎完, 仲間 浩一：「朝鮮時代の風水から見た集落の空間認識と対応方式に関する研究」, 土木計画学研究・講演集, 2003-6, pp2
- 6) 篠原 修編・景観デザイン研究会著：「景観用語事典」, 彰国社, pp106-107 『日本名山圖會』では高い山も低い山もほぼ同じ大きさに描かれるが、これは山を景観として眺めるのに程よい「山の見えの大きさ」があることを示している。それは、「視点から山までの距離」と「視点と山の比高」との相対値である、山を見込む鉛直角の角度で表わされる。通常「見込角」というが、これがおおよそ10度前後である時が適当であるといわれている。

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*1 Graduate Student, Oita Univ.

**2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

**2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng

***3 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

***3 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng